Indoor Environment, Vol.22, No.2, pp.243-244, 2019

豪州での室内環境学関連の学会活動と関連研究の動向など 第5回：ISO/TC146/SC6 シドニー会議

伊藤一秀

九州大学総合理工学研究院
〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1

Recent trends of academic activities related to indoor environmental studies in Australia Part 5: Report on ISO/TC146/SC6 Indoor Air Meeting in Sydney

Kazuhide ITO

Interdisciplinary Graduate School of Engineering Science, Kyushu University
6-1 Kasuga-koen, Kasuga, Fukuoka, 816-8580 Japan

国際標準化機構ISOではTC146がAir quality (大気の質)に関する規格化を担当するが，その傘下には6つのSC (SC 1〜SC 6)がある。なかでもSC6がIndoor air (室内空気)を担当しており，一般環境中での室内空気質関連の国際標準化を目的として活動している。近年は建築空間のみならず車室内等を含めた閉鎖空間一般を対象とした空気質測定法の国際標準化が精力的に進められている。このSC6は毎年一度，どこかの国で会議を開催しているが，本年度は2018年9月24日から28日の5日間，シドニーのStandards Australiaを会場として開催された。本稿はその参加報告である(たまたまメルボルンにサバティカルで滞在中のため，シドニーまで少し足を延ばしてSC6会議に参加することになった)。

さて，豪州は英語圏であり都市も非常によく整備されているため，国際会議の誘致にはプラス面が多いようにも感じるが，どこの国からも遠いので移動が大変，という圧倒的なマイナス面がある。豪州の大学に滞在していると，こちらの教授の先生方は国際会議を主宰したい(もしくは主催しても良い)けれど，なかなか参加者が集まらないからね…と嘆いていらっしゃる。今回のISO/TC146/SC6に関しても昨年度のドイツDusseldorfの会議の際に，ちょっと豪州は遠いから行けないかも，と否定的な声が一定量存在したことは事実である。ふたを開けてみると，SC6議長である早稲田大学田辺先生は学務のために欠席，SC6のSecretaryであるドイツDINのElizabethさんはご懐妊のために欠席，と云うハプニングはあったものの，例年と大差ない程度の参加者数が集まり，例年通りにテキパキと議論が進められた。

ご存知の方も多いかもしれないが，SC6で議論されたISOは16000という区切りの良い番号が与えられており，ISO 16000-1から順次，ISO 16000-2, ISO 16000-3, と規格化が進み，2018年現在でISO 16000-34まで規格化されている(車関係はISO 12219, 一部の分析関係はISO 16017であるが)。

以下，2018年のシドニー会議にてSC6傘下の各WGで議論された要点を簡潔に報告する。

(1) 揮発性有機化合物VOCのサンプリング・分析法を扱うISO 16000-6が5年の定期見直しの時期を迎えており，本年度から本格的な改定議論が始まった。規格タイトルから，Tenax TAが消えること，検出器としてFIDの単独使用は認めないものの，TVOCの評価には便利なので，MS-FIDというデュアル使用を前提に記述を残すこと，などの方針が決められている。このISO 16000-6は各所で引用される重要な規格であり，室内環境学会としても改定方針をキャッチアップしながら，適宜意見を述べておくことが大切に感じる。

(2) 室内のエアロゾル粒子の測定法として，16000-34 (sampling strategy)が正式にISO化し，PM2.5に特化した16000-37もFDIS投票をスキップしてISO化する方針が決定した。これから，Submicron particle (Ultra-fine particle)の測定法，特にCPCを中心

とした測定法に関する新たな規格作成が開始されると共に，韓国からエアロゾル粒子のLow cost dust sensorを対象とした測定・評価法に関する新規規格化の提案があるなど，非常に活発に規格化が審議されている。

(3) TC142/Ad Hoc WGとCEN TC 156 WG19と連携して，知覚空気質に基づく空気清浄機の評価に関するAd Hoc WGが設立されることになった。SC 6では，すでにISO/FDIS 16000-36: Test method for the reduction rate of airborne bacteria by air purifiers using a test chamberとして，空気清浄装置を用いた空気中のバクテリア濃度の低減性能試験法が規格化されているが，次年度からは，ガス状の汚染物質を対象として，知覚性空気質(Perceived Air Quality)による評価法の議論が開始される。

今回のSC6会議には，韓国から10名近い参加者があり，NWIPの提案を含めてSC6の活動に対して非常に積極的である。現在のSC6議長は早稲田大学の田辺新一先生が担当されており，この点では，我が国の貢献や存在感は非常に大きいと云える。しかしながら，これは田辺先生が(ほとんど)手弁当で10年以上の月日をかけて築いてこられた立場であり，非常に残念なことに，日本(政府や役所)としてのサポートは殆ど無い。質が大切なことは指摘するまでも無いが，量も結構大切だと感じる。

今後，韓国の国内基準に準拠したISO提案が増加していくことは確実と思われるが，その内容を(学術的・技術的に正しいことは当然として)我が国にとって不利の無いように，修正議論を続けるだけの力が我が国に残っているか，多少心配になる。

ISO/TC146/SC6 シドニー会議が開催されたStandards Australiaの建物と会議の様子